

1. 第4回協議会における協議概要

政策別の振り返りと検討の方向性

(政策6「経済・産業分野」、政策7「自治分野」、政策8「行政経営分野」)

【政策6】

- 山口市も湯田温泉を中心に、外国人観光客が増加しており、特に9月～11月の行楽シーズンは日本人観光客も多く、外国人観光客を受け入れるほどのキャパシティが不足している。
- キャパシティ不足を補うため、広域的に宿泊の受入体制を構築する必要がある。
また、中山間地域での民泊受入なども今後検討していく必要があるのではないかと。
- 周辺自治体とのDMO構築が必要と考える。
- おもてなしの中で、ボランティアを一つの事業として捉えて行く必要があるのではないかと。無料ボランティアの有償化など。
- 湯田温泉の旅館では、従業員に対する夜間託児施設が不足しており、従業員の確保が難しい。
- 山口ならではの温泉（地）づくり（床材や梁が阿東徳地産木材を利用している、大内塗りのアメニティボトルなど、安価で住民が何度も利用できる温泉など）
- 交流人口の拡大に向けて、連携中枢都市圏を形成する市町において、観光資源を共有、結びつけを行い、圏域内を周遊する新たな取組みが必要である。
- 街なかにある湯田温泉の特性を利用する発想が必要ではないかと。
- 物産は、観光誘客につながる重要な要素の一つであり、PRは重要である。
- 湯田温泉宿泊客数は、市内全体の割合からすると、横ばいもしくは減少傾向にあるが、どう分析しているか。（割合ではなく）平成29年度の湯田温泉宿泊客数は、前年度と比較し、5%増加しているなど、実は、宿泊数は増加しており、稼働率も高い。宿泊客キャパでいうと、新山口駅1000人、湯田温泉が2,500人合わせて3,500人ある。湯田温泉は稼働率が増加している中で、いかに客単価、質を高めていけるのか、こうした施策の展開を考えている。
- 高齢化が進む農業分野において、生産者の所得増加が一つの課題。また、6次産業化の促進において、農商工連携が必要。
- 山口市の人口の約1割にあたる小中学生や教員などに、安心安全、地域への愛着といった面からも、地元産食材を学校給食に利活用していただければと思う。
- 高齢化に伴い山の境界を知る人が少なくなることも懸念され、森林境界明確化事業促進の加速化が必要。地籍をはっきりさせることで、山の売買等も進む。
バイオマス関連施設の着工により、未利用木材の活用が進むと思われる。
また、学校教育の場で、体験学習等を通じ森林のことについて、子どもに興味・関心をもっていただきたい。
- 山口市の人口が、この5年間で増加しており、人の流れは、小郡都市核へ一旦転入し、そこから山口都市核のほうへ移り住んでいる傾向がある。産業集積だけでは、人口が増加するものではなく。様々な人から話を聞く限り、生涯住み続けたい場所は、文化であり、QOLを高める環境がある場所だそうで、山口都市核には、美術館をはじめ、多くの文化施設がある。山口都市核、小郡都市核といった異なる特性を持つ都市核づくりは、非常に大事なまちづくりの考え方だと思う。

- 山口市には農産物や観光資源など、一つひとつは良いものだと思うが、全体として競争力をもった山口ブランドとしてのイメージが無い。総合計画においても、しっかり今後のビジョン（どういうまちにするのか）をしっかり示していく必要がある。

【政策7】

- コンパクトシティは、実際には色々な法律の制限もあって前に進んでいない。
山口市内にも路面電車を走らせてはいかがか。ドイツでは、観光客に無料パスを出して、市内を周遊させている。
- 行きたいときに、行きたい場所へいけるなど、交通手段を選択できるアクセス性が低いと思われる。山口市が日本一ヒッチハイクしやすい市になったら、若者と中山間地域の高齢者との交流も活発になるのではないか。
- 現代は個人でも情報発信できる時代であり、情報を受け取る側が、欲しい情報を取捨選択できる。こうした中、いかに行政が市民に興味・関心をもっていただけるか、情報をつたえられるのか、工夫が必要となる。

【政策8】

- 中小企業の経営安定化に関して、成果指標のひとつである「山口市の制度融資利用件数」は、目標値を達成されているようだが、私の感覚では、それでも件数が少ないように思う。利用しやすいように制度融資の見直しを検討していただければ。
- 山口県全体でも事業を承継する人材が不足しているなか、高等教育機関では、県内の就職率を1割上げる取組みも進めている。
高等教育機関も人材育成をしっかりするので、地元企業に人材が送りこめるような環境整備は重要である。
- 県下全市町で総合戦略を策定しているが、一番重要なのは若者が働きやすい環境や子育てしやすい環境をどう確保するのかである。そのためにも今後の働き方改革の方向性が大切と考えるので、総合計画で具体化していくことも考えてはどうか。
- 例えば、能で使用する装束や鷲流狂言など、山口にしかない貴重なものがある。
こうしたものを次なる10年において、具体的にブラッシュアップしていくことが地域に活力をもたらすことにつながると思う。
- 連携中枢都市圏の形成について、30年後、この圏域では人口約15万人が減少することが予測されている。いかに、圏域で人口減少を食い止めるのかこれまで、協議してきた結果、経済界で意見が一致したのは、交流人口を増やし、地域経済の活性化につなげていくことである。圏域内で観光客を奪い合うのではなく、圏域が一体となって観光戦略を立てていくこととしている。戦略の一つとして提案させていただくと、草江駅の名称を山口宇部空港駅の改名するのも大切ではないかと考える。
- 農山漁村エリアでは人口減少が進展していることから、小さな拠点の発想は重要である。ただ、その拠点については、公共、JA、診療所など生活に必要なサービス機能だけでなく、商工業を含めた拠点づくりをして、地域の方が安心して生活できるということが大事ではないか。
- 雇用政策について、県と市が役割分担を明確かし、重複なく効果的に事業展開することが大切である。また、大学生と地元企業が交流して果たして就職につながるのか疑問である。同じ税投入をするのであれば、成果が上がる事業を展開していただ

きたい。

2. 第4回協議会以降、意見書により頂いた御意見等

【御意見・御提案】

●施策6-1 湯田温泉宿泊客増加に向けた取組みについて

湯田温泉の魅力創造のためには、山口市民が温泉に日常的に入浴し、(歓楽街としてではなく) 親しみ、地元の温泉を愛する機運を醸成する必要があると考える。

他の案件でもしばしば出た意見ですが、地元の人が親しんでこそ、他地域の人たちも魅力を感じるようになります。宿泊客数だけでなく、市民が湯田温泉に入浴する年間回数も、数値目標として打ち出してみてもはどうでしょう。

●移動手段の不自由さに対して「日本一ヒッチハイクしやすい町に」などの意見が出されました。中山間地域に限る等、タクシー業界とのすみ分けは必要ですが、ウーバーを「解禁」すればコミュニティバスやコミュニティタクシーのように公金を投入せずとも、田舎の不便さは「助け合い」によってある程度解消できようかと思えます。

また、全国的に高齢者が判断を誤ることによる交通人身事故が社会問題化しています。とはいえ、広域な市域を持つ「クルマ社会」の山口市では、自家用車は「生活必需品」。悲惨な事故を予防できるのが、2020(平成32年)までに「高度運転支援」の実用化が目指されている自動運転車ではないでしょうか。公共交通の充実した首都圏からの移住増も目指す中で、他の自治体に先駆けて「高齢者が乗るマイカーは全て自動運転車」となるようなまちづくりに向けた条例制定、独自の補助金制度などを検討できないでしょうか。

さらに、県による「サイクル県やまぐち」の取組みも始まりました。市中心部のほどほどに離れた各種の施設同士を結ぶ手段として、公営自転車システムを整備したら、市民と観光客、どちらの利便性も向上すると思えます。姉妹都市、韓国・昌原市のシステム「ヌビジャ」が参考になるのではないかと。

●施策6-5「地域に活力をもたらす産業創出のまち」

山口市中心市街地の活性化・新山口駅北地区重点エリア整備については重要な施策と思うが、この施策で市内周辺地域まで活力をもたらすことができるか。

●施策7-2「市民と行政の協働によるまちづくり」の中で掲げている、「小さな拠点づくり」を、施策6・施策7を取り込んだ「小さな拠点づくり」にすべきである。そうしないと市内周辺地域は、ますます過疎化していくことになる。(秋穂・徳地・阿東の人口減少は資料のとおり) 行政サービス・医療・日常生活していく上での生活必需品の買い物等、周辺住民が不自由なく生活できる「小さな拠点づくり」が今一番の最重要課題である。

●本庁舎の整備について

道州制・連携中核都市圏を目指す動きがある中、また将来の行政サービスのあり方・交通アクセス等利便性・市内の南に向けての発展性等あらゆる観点から、小郡地区を選定すべきである。

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第4回山口市総合計画策定協議会
開催日時	平成29年2月16日（木曜日）14:00～16:00
開催場所	防長苑 1階白鳳の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員、加登田委員 ほか16名（全18名）
欠席者	豊田委員、原委員、鵜委員、瀧本委員、西村委員、河村委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事（別欄参照） 4 意見交換 5 今後の日程 6 閉会
議事	<p>1 第3回（前回）協議内容</p> <p>2 施策別の振り返りと検討の方向性</p> <p style="padding-left: 2em;">○政策6「経済産業分野」、政策7「自治振興分野」、政策8「行政経営分野」</p> <p>【会長】</p> <p>お忙しい中、本協議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>今回は第4回目になります。今回の分野といたしましては、一つは政策6「経済産業分野」、それから政策7「自治振興分野」、そして政策8「行政経営分野」以上、総合計画の根幹を成すであろう3つの施策につきまして、色々、御意見や御提案を賜ってまいりたいと存じます。</p> <p>本日は全体の説明をコンパクトにし、30分程度で終えて、残りを協議の時間に充てていきたいと考えておりまして、極力多くの方から御意見をお聞きしたいと思っております。また、前回同様、この場で言えなかったことは意見書に書き込んでいただいて事務局まで御提出をいただきたいと存じます。</p> <p>それでは、前回、第3回協議会の概要について事務局よりお願いいたします。</p> <p>【事務局】</p> <p>第3回（前回）の会議概要について報告。あわせて協議会終了後に寄せられた意見書の紹介。</p> <p>【会長】</p> <p>はい、ありがとうございました。只今の御説明に対しまして何か御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、「施策別の振り返りと検討の方向性」について、政策6「経済産業分野」について事務局よりお願いします。</p> <p>【事務局】</p> <p>議事（2）施策別の振り返りと検討の方向性について、資料2（A4版）に基づき</p>

経済産業分野を説明

【会長】

はい、ありがとうございました。これから質疑に入りますが、各分野で御活躍されている委員の皆様もいらっしゃいますので、まず、御意見を伺ってまいりたいと思います。最初に観光に関しまして、御意見をいただきたいと思います。

【委員 A】

6-1の観光分野について御意見を申し上げたいと思います。

まず、詳細の方の A3 版の資料がございますけど、そちらの方に、観光交流課さんの方で相当細かく分析をいただいていますので、私どもの実施しております事業の計画なども詳細に掲載されていると思います。

ただ、やはり、これだけでは、観光分野の中身が見えてこないということもあります。今皆様方もよく DMO という言葉を耳にされると思いますけども、DMO で事業化できるものとしては、コンベンション、それからインバウンドの関係でございます。特にインバウンドにつきましては、「ビジット・ジャパン」に始まりまして、国の方も相当力を入れていまして、外国人観光客が山口市にも相当増えてきている。先日、旅館に行ってみますと、最近日本人よりも、外国のお客様がいらっしゃるの多い日もあると聞きまして、ソウル便の関係もありますけども、相当、外国からのお客様が増えてきている。

細かい話をいたしますと、映画スターウォーズの中国人俳優の方も、山水園に密やかに宿泊に来られたという風なこともございます。

そういうことで、私どももインバウンドに関しまして、湯田温泉を中心に事業のほうを進めていましてけども、やはりキャパシティの問題で、特に9月～11月などは、日本人の観光客が多数お越しいただきますので、インバウンドが入りきらないという部分もございました。といったことから、山口も広域的に宿泊の受入態勢の構築も必要ではないか、また、中山間地域での民泊受入なども今後推進していく必要があるのではないかと考えております。

また、コンベンションに関しましては、物産と観光は切っても切れないことから、ふるさと創生部、経済産業部といった部を超えた連携させていただく必要があります。それと、定住の関係とも連携をとらせていただいております、いわゆる観光を素材とした定住も視野にいれて推進しております。

様々なものを素材にして、DMO でいかに収益を上げられるのかといったものを考えていますけども、この山口市だけで取り組むのも一つなんですが、やはり、DMO になると周辺市町村を巻き込んだ DMO の組織体制の構築というものが必要ではないかと思っています。これを平成29年度の課題としまして、次の DMO の組織づくりをやっていきたいと考えております。

また、この詳細資料の中に記載されております、音楽イベント、8月にきららで開催しております「ワイルドバンチ」というコンサート、これは約5万員の規模になりまして、宿泊者が以前より増えてきていまして、キャパが足りないことか

ら、テントを張って宿泊している方もいらっしゃいます。開催時期の8月下旬は閑散期といわれていましたけども、そういったところにも宿泊が増えてきています。

あと、おもてなしの部分で言いますと、ボランティアという問題がありますが、このボランティアに関しましては、もう一つ考え方を变えて、無料ボランティア五重の塔などのボランティアを有償化していくとういような実施もしていく。ボランティアという響きはすごくいいんですけど、やはりおもてなしということで、事業の一つとして考えていく必要があると考えています。

【委員 B】

私は育児を5年ほどしております、地域の活動にあまり参加できずにおります。今回は湯田温泉の旅館、ビジネスホテルの経営者の方々、従業員の方、飲食店や小売店、大切な住民の方々にお会いして、現状と問題点、また何を望まれているのか、お話を伺って参りました。そのお話と私自身の意見を交えて発言させていただきます。

大きく分けて3つ、ハード面で2つ。そのうちの1つは夜間の託児施設を必要としているという状況です。昼間の保育施設が足りないのはもちろん、湯田温泉の土地柄、夜間の託児というのがとても必要なのです。その点で人材が確保できずに商売を辞められる方もいらっしゃいます。またその夜間の子どもの居場所をつくるというのは、いま問題になっている子どもの貧困についても解決策となるのではないかと考える方もいらっしゃいます。私自身も子育てしていく上で、商売との兼ね合いというのがとても苦勞しました。

また2つ目のハードは公共の温泉施設です。これは随分前から住民の方々が言われていましたが、まだ民間の施設さんにもありますのでその辺の兼ね合いが難しく、叶っていないのですが、例えば **made in** 山口の床材や梁が、徳地や阿東の木材であったり、アメニティのボトルが大内塗りのボトルだったり、そのように山口でしかない温泉、湯田温泉の温泉を本当にかけて流して楽しめる温泉。それを安価で何度でも通えるような温泉が欲しいというのが、住民の方々から多く声が挙がっています。

ハード面はこの2つなのですが、関連的な話になりますが、ソフト面を一つ。私は旅館に育ったので、父と母の姿を見ていて、いつもまた来てくださるように、今日来て良かったと思えるように、実際にそのお言葉を実行に移していただけるように頑張っている姿をみてきました。それは旅館だけではなく、飲食店、小売店も一緒だと思います。その関連的なソフトの面で、思いがなければ継続的な事業というのは続いていかないと思うので、そういう一過性の観光ニーズに応えるだけでなく、湯田温泉を下支えしてくださっているお客様を今までと同じように大切に、またそういうお客様というのは観光の方だけでなく、地元のお客様もそうです。そういったお客様を増やそうという意識で事業を行っていったらいいなと私たちは考えています。

【会長】

ありがとうございます。夜間の託児なんかは、私どもがなかなか、発想できないもので大変貴重なお話をありがとうございました。湯田温泉のお話に対しまして、事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】

はい、大変貴重な御意見をありがとうございました。

やはり、湯田温泉は、にぎわい、消費だけでなく、明治維新の策源地と言われるように人が集って、色んなことを話し合うコミュニケーションの場であると思っています。委員さんが言われましたように色んな人が関わりをもって、おもてなしをするのが大切だと思っています。湯田温泉は飲食だけ見ても社交の場としても、もっともっとアピールしていきたいなと思っておりますので、その辺も考えていきたいと思っています。それから位置から見ていただければ、湯田温泉を中心に、市役所のほうに行けば情報芸術センターYCAMがあります。同じような距離で小郡のほうに向かいますと維新公園があります。いまスポーツ、レノファのホームもありまして元気ですが、そういうスポーツとYCAMを擁した文化、これを湯田温泉の中で上手に、位置も含めて、結びつけて、新しい賑わいをつくる。そしてその湯田温泉に賑わいをつくって、それを色んな地域核、さっき願成就温泉を言われましたように、そういうところにアピールして人が回遊する仕組みをつくる。こういうまちづくりをしていきたいと思えます。以上です。

【会長】

ありがとうございました。いまスポーツという話がありました。競技場も湯田温泉から近いわけで、色んなイベントもよく開かれています。C 委員さん一言お願いします。

【委員 C】

先ほど、言われたかと思いますが、最近スポーツイベントが国体以来、維新公園で開催されておまして、山口市あるいは湯田温泉とすれば、維新公園があるということが大きく、非常に助かっています。今度小郡の新しい施設もイベントメッセコンベンション、それからスポーツも少しできるようにとお願いもしています。多少、交流人口の増加に繋がるかなと思っています。特に山口市はきらら公園を持っていて、大きいイベントをやっていますので、非常に助かります。余談ですが、明後日スペインの水泳連盟の会長が来られまして、レセプションがありますが、ぜひオリンピックのスペインの水泳のキャンプ地になればと思っています。

【委員 D】

先ほどからのお話はまさにその通りだなと思いました。交流人口の増加に向けてということで、観光地の活性化ということで、連携中枢都市圏を形成する市町で連携というか、もはや面の広がりや観光資源を中枢都市圏を形成する市町で共有するくらいの感覚でいかなくては。山口市の観光資源ではなく、圏域での資源を

共有していこうというような発想を持って、その圏域の中でどんどん周遊していく。観光客に周遊してもらおうというような発想で、色々と開発なり整備なりしていったほうがいいと思います。それぞれの市町が持っている観光資源、地域資源のバリエーションを有効にそれぞれが使えると、資源の層が広がる、厚くなるという利点もあると思います。特に新しいことをする必要もなくそういうことができるのかなと。

それから交流というのは、どうしてもイメージっていうのもありまして、人、観光客が行ってみよう、どこに行ってみようというイメージがあると思います。やはり賑やかだとか、そんなイメージがあるところっていうのは何となく人が見つけられやすいというか。例えば移動の拠点とか、ゲートウェイである駅はよく行っていただいています、山口県のゲートウェイは新山口駅だとよく言われますが、例えば山口市であれば新山口であり、山口駅かもしれません。湯田温泉であれば、湯田温泉駅かもしれませんが、そういった駅の周辺に人が集まる仕掛けといいますか、そういったものもやはりイメージづくりのためにも、必要なのではないかと思います。例えば先ほどもご紹介がありました新山口駅には拠点整備のターミナルパークというハード整備がされていますが、ソフトとして駅周辺でのイベントや定例的な賑わいがあるようなことがあってもいいのではないかと思います。地元の皆さんが集まらないところに県外、市外の方も多分集まってこないと思います。

それから湯田温泉の話ですが、湯田温泉の特徴というのは何と言っても県都にある温泉地であるということと、新幹線のぞみが停まる駅から車で20分くらいで来れてしまう温泉地というのは他になかなかない、これも特徴だと思います。そういう意味で言うと、利便性が高いところにある、しかも県政の中心であるところにある温泉地なんだという、こういう特徴を一つには生かして、あるいはPRに使ってもいいのかもしれない。

一方で、温泉地というのもイメージがありまして、例えば白浜とか城崎とか有馬とか、だいたい温泉地風情がありますね。川が流れていて、橋があって、浴衣を着て下駄をはいて、湯冷ましに歩くとかですね。ちょっとそのイメージが湯田温泉の場合は今のところないところが、これを欠点と取るのか、これを生かして街中温泉みたいな感じで逆手に取っていくのか。これも発想の転換かだと思います。ないものねだりをしては仕方ありませんので、そういったところで逆手にとって色々と発想を変えていくっていうのも一つのやり方かもしれません。

あとインバウンドの関係では、Wi-Fi や言語表記など、プロモーションもすごく大事です。これは既に諮っておられますが。インバウンドの方が来られるときというのは、だいたい福岡空港とか、宇部空港とか関空とかで、そこから新幹線やバスで来られることがあると思いますが、この山口エリア内で周遊、移動されるときは拠点はどこなんだろう、と最近思いました。どこを移動拠点として山口エリアを周る、移動されるのがどこが一番利に適っていいのかな、便利でいいのか

などと思います。というのも、私は仕事柄新山口駅によく居りますので新山口には観光案内所があって、外国語のご案内ができる方もいらっしゃいますし、移動にとっては非常に適しているので、新山口エリアとか、ああいうところにインバウンドの方が何かあったら寄れるような拠点があってもいいのかな。それが新山口になるかはちょっと分かりませんが、いずれにしても拠点はどこなんだろうと考えました。

最後に、ふるさと製品の件を私も興味深く思っていて、既に展示会とか、出店経費の支援とかをされているのはとても良いことというか絶対必要なことだと思っています。市外県外にこだわりの良いものを出店されるときってというのは、どうしてもお金がかかります。これはその方の商売のためだけではなく、特産品が県外の方の目に触れるということはそのままこれが山口という土地のPRにもなります。それから実は観光客の方が観光に行くときの動機は色々あるんですが、結構なウェイトで製品の生産地とか、それが観光に行こうと思う動機になることがあります。ですので、ぜひ県外市外とかの展示会とかPR展とかに行く機会が増えればいいのではないかと思います。これはもう一つは消費者と生産者さんが直にコミュニケーションをとれるいい機会でもありまして、そういうところで色んなヒントが生産者さんにとってもあるという話も聞きます。そういうイノベーションが生まれる機会としても良いのではないかと、推進していくべきであろうと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。非常に貴重なご意見をいただきました。意見を周辺の開発だとか、湯田のイメージですね。湯田温泉を将来どういうイメージで、湯田ってこうだよって頭の中でイメージがわくような、そういうイメージづくりも大事だと。あとは拠点はどこでしょうと。色んなシミュレーションをやってみたらいいと思うんですよね。どこを拠点に、どういうところまで範囲の1日で行ける、行けない、車で行ける、自転車で行く、色んなそういうことも大事なかと。最後のふるさと製品ですが、やはりまずは知ってもらうことが大事で、知ってもらったあとは、1回その場所で食してみたいとかですね。お酒も有名なお酒があると。じゃあ1回行って、蔵元で飲んでみようとか。そういう観光というものの重要な感じがしました。

【委員 E】

これからの観光は、先ほどから話が出ていますDMOをきっちり作っていかないと駄目だと思うんですが、結局DMOっていうのは地域住民の皆さま方を巻き込んでの観光客の対応ということに尽きるのではないかと思います。実際にやるためには営利会社等、ボランティアの委員会等はまた考えないといけないと思いますが、ぜひ総合計画の中に入れていただきたいのは、そういう地域住民の皆さんと一緒にやっていくような方向の観光産業、観光の方向、そういったことを総合計画の中に入れていただきたいと思います。というのが、ご承知のとおりインバ

ウンドにしましても今までは中国から来られる方は団体で来られて爆買いをするという時代でしたが、最近ではどうも東京の銀座もかなり寂れてきたという状況で、団体客の数が減って少人数の旅行が増えているということで、その方が行かれるのはやはり体験のできる場所。農業体験とか、色んな体験があるでしょうが、そういうところがあるとなるとやはり農家の方、あるいは、そういう地域でなければできないものを体験していただくというようなことが、これから流行ってくると聞いています。商店街でやるにしても、やはり地域の方が先ほどのリピーターの話じゃありませんが、親切に扱っていただかないとなかなか難しいということだと思っています。ぜひ地域ぐるみでの観光ができるということを総合計画の中に入れていただけたらなと思っています。

【会長】

ありがとうございました。

【委員 F】

質問を兼ねてお尋ねしたいんですが、施策6-1の中で交流人口増加ってこの資料に書いてあるんですが、市内宿泊者数の26年から27年に5万人くらい増えています。しかし湯田温泉宿泊客の増加にむけた取組という項目がある中で、湯田温泉の宿泊客の割合が横ばいから減少している。ということは端的に見れば湯田温泉ではなく他所へ泊まっているのではないかという状況は、どのように分析されていますか。やはりこの項目として湯田温泉の宿泊客を増加させようという、そういう尺をとるのであれば分析をした上でもっと具体的な湯田温泉のブランド化をはじめ、そういうことで取り組んだほうが良いと思います。その辺の理由を説明していただきたい。

【事務局】

貴重な意見ありがとうございます。湯田温泉については例えば今年と去年の数字で見ますと、1.05伸びています。一昨年はねんりんピック、世界スカウトジャンボリーがあったにも関わらず、28年も伸びています。実は湯田温泉の宿泊数は伸びています。ただ、湯田温泉の宿泊の稼働率で見ますと、かなり高い状況にあるというのが今の状況です。ですから私たちが今から、産業として考えるときにどうするかといった時には、ここにも書いてありますように宿泊単価を上げていく。宿泊単価を上げることによって儲かる。儲かった部分が地域に還元されるというふうに考えています。全体で見ますと、新山口駅等がだいたい1,000人くらいの宿泊キャパがありまして、湯田温泉で2,500人くらいの宿泊キャパがあつて、だいたい合わせて3,500人くらいの宿泊キャパがあり、それをどう埋めていくかというのがありますが、湯田温泉だけで見ますと今はある程度稼働率が上がっている中で、単価を上げていく、資質を高めていくという施策をうっていきたいと考えています。

【会長】

他にも施策がありますので、そちらに移らせていただきます。まず農業、林業、

漁業、そういう一次産業をどう育てるかというのも重要な課題ではないかと思えます。まずはGさん、もしご意見がありましたら。

【委員G】

基本的な方向性というのは、これに非常に取りまとめていただいて、こちらとしましては山口市には大変にお世話になっているわけです。一つにはこの資料の中に書いてあったんですが、私どもは一昨年出資型法人ベリーロードというのを佐山地区に作ったんですが、いちごの生産団地といいますか、3カ年で5.8haを目指していま進めて2期目の工事をしています。この3月中旬にはハウスも全部立ち上がって、3.6haが完成するという状況です。その辺については非常に市のご理解をいただいているところです。全体的な話からすると、この構成は非常に素晴らしい形でつくってあるんですが、いま農協としての課題というのをご承知のように、高齢化で大変難しい時代ですが、いま農協としては生産者に所得増を、ということで一つの視点。それから地域社会との交流だとか環境、文化、そういう視点での1点。それからもう1点は、行政地域とJA地域の違うところがあるんですよね。一つには徳地のほうが山口市ですが、農協は防府とくち、また阿知須は山口市ですが、山口宇部農協の管内ですね。市によって、行政関係が違うものですから、その辺については少しこの中に書き込んでいただいて、少し課題があると思しますのでその辺をまとめていただきたいなど。特にご承知のように、一応、県1JAを目指して31年の4月を目処にいま動いているわけで、そうなれば解消することはあると思うんですが、我々は山口市にお願いして、県にあるいは国にお願いするという状況。あるいはその辺の差異が市によって、農業政策が違うところがありますので、ぜひともその辺をご理解いただきたいと。先ほど第1番目の視点の所得増については、当農協もお米だけ作ってはい駄目だということで、野菜、麦、大豆等も含めて、複合経営していただくということは、担い手や法人、あるいは多様な生産者をお願いをしています。ただ問題はその中で、所得増に向かって6次産業化、農協のその作ることについてはプロですが、それを加工して販売するというところが非常に弱いところがございますので、その辺を例えば商工会議所とか、あるいは市内の観光施設だとか、色んなそういうチームを作って、意見交換して行って、これをこういうふうにしていこうとか、そういう計画を作って6次産業化を進めていきたいというお願いでございます。また、地産地消ということで、先ほど学校給食のこともちょっとこの中に書いてありましたが、非常によく使っていただいています。ぜひとも、これからはいま学校給食と市の教育委員会、あるいは市の行政のほうとも調整させていただいていますが、この会合をもっと進めて行って、やはり多様な担い手の方がいらっしゃるわけですね。また、ある程度、年をとっていても孫が学校に行きよるから安全安心なものをつくっちゃろうと、こういうことで学校給食ももう少し地元産を活用していただければ非常にありがたいなど。そういうふうになれば、安全安心なそういうものを小学校の時代から食べれば、一生涯その味を忘れないので、ぜ

ひそういうことをお願いしたいと思います。特に山口市はいま、以前もお話したかもしれません、確か1万6千人くらいの児童、生徒が中学までいらっしゃるわけですね。そういう中で学校の先生を含めるとほぼ2万人近い方が学校関係では働きになっている。そうすれば今、山口市が19万6千人くらいですかね。1割強の方が学校関係にいらっしゃるということで、ぜひともそういうことを含めてもう一度この中に落とし込んでいただければと思います。

それから、やはり我々は地域との結びつきが非常に、山口市も1地区だったと思うんですが、当農協管内の21地区ありまして、その中で色んな多様な文化もありますし、色んな違いもありますし、作るものも違うので、非常に一貫した指導、ひとまとめにした指導というのは非常に難しいわけで、そういう中でやはり行政と共同、連携しなければいけないことがたくさんございますので、そういう意見交換もぜひとも、こういう中に落とし込んでいただいて、いつもお願いにいくときには市の行政だとか、県の農林事務所をお願いに行っているんですが、定期的な農政課のほうとぜひともそういうことを何らかの方向性をもって考えていただけるといいなと。特に山口市の総合計画ですから、農業の面だけではなく、ご承知のように山口市のほぼ1,000平方キロある中で、当管内は730平方キロくらいの地域で色んな活動をしておりますから、これからは当然観光だとか、産業なんかの分野の一分野でぜひともそういう行政との連携、あるいは色んな団体との連携というのは必要になってくるということの一つお願いして私のほうからお話させていただきます。よろしく申し上げます。

【会長】

ありがとうございました。非常に貴重なご意見だろうと思います。それではH委員申し上げます。

【委員 H】

森林組合はいま山口市内2つの組合があって、私のところは阿東のほうを管轄する組合です。山の状況なので、市内は同じような状況だと思いますが、この森林の施策の方向性については大変よくまとめられておられると思います。ご存知のとおり、先ほども言われましたように、過疎、高齢化も進んで、もう限界集落も近いようなところで森林の事業をやっているわけですが、一つはここに書いてありますように、森林境界明確化事業、これを先に進めないと山の境界を知る人がもういなくなる。私たちが事業で進める中においても、そういうことは多々あるわけで、地籍調査も阿東のほうも進んでいないんですがこれを進めることによって、地籍をはっきりさせることによってまた山が動く。ということは所有者、売りたい人、買いたい人が相談しやすくなる。これを一番に考えていきたい。

それと、山で一番難しいのは、経営するという感覚が各森林所有者にないということですね。昔から言われるように嫁に行くときに山を売ってそれを嫁入り代にするとか、そういう感覚があって、森林所有者で持たれている面積が少ないと。中には多い人もおられますが、それもわずかです。それも人工造林ですから杉、

ヒノキを植えた山が半々という方がおられたらそれは人工造林した人が多いということです。これらを食い止めて今までやってきたわけですが、材価が下がったということで、一段と山への関心が私たちの若い頃よりかは薄れていると思います。その中でこの度、森林組合連合会が阿東に北部木材センターという施設をつくるということで、この12月に着工しています。これはバイオマス関連の施設なんですけど、今まで山で間伐してそこへそのまま置き去りにされたような材を、いわゆる未利用材ですが、そういう材を利用しようという試みで、完成は今年度の予定です。今のところ、私たちはこの事業に力を注いでいきたいと思っています。あと大変、市のほうにもお世話になって、市有林の整備等を通じてかなり仕事の的には組合のほうへ出していただいています。それについては大変、市の取組に感謝しているところです。これらを糧にしてどうにか山村の活性化に取り組んでいきたいと思っていますので、まず体験学習等を通じて山のことを知っていただきたいと思うので、学校等を通じて申し込みがあれば組合も対応していきたいと思っていますので、また事業に関する、まあ、私たちも全て理解しているわけではないですから、なかなか全体的なことが見えていないところもあるわけですが、皆さんのお知恵とかいただきたいと思っていますので、また組合のほうにもぜひ関心を持っていただけてお近くに来られる際にはぜひ寄って一言お話等いただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【会長】

ありがとうございました。まだ色々やるべきことがありそうで、未利用材の活用は非常に重要なプロジェクトのように思います。

あと残ったところに産業創出のまちだとか、産業の活性化なりに、創出ということがすごく重要なので、ちょっと次の施策にも食い込みますけど、ぜひこれについてご意見をいただけたらと思います。全体的な話も含めてなんですけど、I委員お願いします。

【委員 I】

産業全般に関することとして意見を言わせていただきます。今の駅北のことも含めて、山口の場合は第3次産業が全体の約8割前後を占めている状況です。その中で今後、どういうところに活力を見出していくのかということですが、これはのちほどの広域連携との話が絡む部分もありますが、ここ山口市において言えば、人口減が今から厳しくなる中でどういうふうに関人口減を若干でも食い止めて地域の経済を維持していくかというところがやはり一番のポイントだなと思っています。このままいくと非常に厳しい状況になるのは目に見えているわけですが、じゃあその中で隣の市と、あるいは隣の県とどう差別化をしていって、この地域に人工密集地帯を少しでもつくって社会的なインフラにかかる投資を少しでも減らして、必要なお金を必要なところに投入するかっていうことを一番考えないといけなかと、商工会議所も思っているところです。現在山口市が進めている2つの都市核、山口都市核と小郡都市核というのは非常に重要であると認識してい

ます。このところ、この5年間は山口市の人口は増えています。その増えている原動力はこの小郡一帯の人口集積ということになりますが、もう一つ特徴が出ているのが、この小郡に住んだ人が今度は山口都市核のほうに移り、住み替えをしているという実態があるということ。これは色んな人に話しを聞く限りにおいては、やはり生涯住もうというまちというのは、やはり文化といいますか、自分の生活を豊かにする環境に住みたいと思われる方が非常に多いという。こういう実態があります。それから、小郡にないというわけではありませんが山口都市核というところは500年以上前に大内氏がつくったまちのイメージがまだ残っていますし、美術館をはじめとする多くの文化施設があります。そういうところはやはり生活を豊かにする、いろんなインセンティブがあるわけで、産業集積だけではなく人が集まりやすいコンパクト化されたまちというのは、子育てをする上でも生活をする上でも、非常にやりやすいわけです。そういう小郡というちょっと際立ったまちと、それから従来の山口という文化の薫るまちと、2つの核を持って山口市を形成していくというのは非常に大事なことだと思います。それが今後の山口の生き残る上での非常に重要な点になると思います。私は総合計画の全般を見て一番感じるのは、山口の色んな切り口の訴求ポイントがあります。温泉もそうですし、食べるもの、農産品にしても、海のものにしても、美味しいものが数多くありますが、それが1つ1つ取り上げたときにそれが際立ったものなのかということになってくると思っています、やはりそれは全体で見るとボワッとしてしまう。ボワッとしてしまうが為に、競争力が弱い。競争力が弱いから観光をやってもなかなか競いが出ないという実態がここにありますので、一つは今からの10年間を捉えてみたときに山口を売りだすストーリーというのをきっちり作り上げる必要があるかなと思います。その具体的なところは商工会議所でも詰めているところですが、文化という切り口は非常に重要だと思っています、大内とかですね。今日はスペイン大使がこの山口に来られておられまして、今日はお昼にずっと接遇をさせていただいたんですが、海外との交流の切り口というのをもっと太くしていくことによって、山口が際立ったまちに持っていくことができるのではないかと考えています。少し長くなりましたが、以上です。

【会長】

ありがとうございました。重要な視点であり、先ほどもちょっとありましたが、山口というと湯田温泉がモヤッとしていて、湯田温泉というと何を思い出すかということ中々思い出さない。だから山口県って知名度が全国でも下から何番目という、多分そういうことにも繋がっているのかな。だからやはりちゃんとしたビジョンを持って、こういうまちにするんだというのが必要な気がします。今の委員の話の聞いたら、まさにそうかなと思います。

その他、産業、企業誘致を含めてなんですが、何かご意見があればお聞かせください。

またあとでご意見をいただければと思います。それでは政策7「自治振興分野」

についてお願いします。

【事務局】

議事（2）施策別の振り返りと検討の方向性について、資料2（A4版）に基づき自治振興分野を説明

【会長】

ありがとうございました。地域づくり協議会、それから対自治会をはじめとする地域のコミュニティ、それから協働によるまちづくり、そういったことについての現状分析と今後の方向性について、ご紹介をいただきました。自治体や地域づくりに関するご提案というか議論ですので、J委員お願いします。

【J委員】

協働のまちづくりということで、何年か前からやっているのですが、実際的に協働のまちづくりは大事なことなのですが、現状では行ったり来たりしています。実際に自治会と、また協働のまちづくりとしての団体の策が、そういうことを要綱だてるといってかなり考えてやっているんですが、その辺で一番苦労の多いところですね。

それからコンパクトシティ、これも前々から考えておられるようですが、その面でもなかなかコンパクトシティが実際に色々な法律の制限によって進まないということもあります。というのは、特に旧山口市内と言いますと白石、大殿、湯田とだいたい言われているんですが、これの大メンテを道路がかなり広く整備をされているように思えるんですが、ちょっとくらい入ったら3メートル、時には2メートル、時には行けないというようなことがたくさんあります。これをやはり解決していかないと、実際にはコンパクトシティにはならないと思います。これは法律として変えていくことが難しそうです。もう一つ考えたらいいなと、これは私自身が思ったことなんですが、山口市に路面電車を走らせたらかどうかと、ちょっと飛んでるんですが、でも現実的には可能性がないとは言えない。新山口から山口県立大まで、縦ではなく横の線を何本か貼り付けると全体的にまちが広がっていくのではないかなと。先だってたまたまちちょっと、ドイツに行ったときに、そういう形でまちづくりをしているところがありました。これだなと。朝から晩まで街をぶらぶら、観光客もたくさん来てぐるぐる周っていると。当然宿泊客には電車の無料券を発行して2泊3日だったら3日間分の無料パスを渡して、観光させている。街をとにかくぐるぐる結構歩いてお年寄りがあとから、かなり遅くまで買い物をしているというような街でした。あれを考えたら山口市もちょっとくらい可能性があるのではないかな。これは私の意見なんですが、他の交通関係者には大変迷惑な話かもしれませんが、案外こういう考え方もあってもいいんじゃないかと思っています。

それから協働のまちづくりは一応私の地域は大殿なんですが、最初から一応まちづくりと自治会が本当に協働してやったお陰で何とか少しづつ前に進んでいます。以上です。

【会長】

ありがとうございました。山口は広いですので、やはり交通というのはすごく大事な感じがします。私も平川にいて7割の学生が街の中に出て行かない。恐らくそういう交通の手段というか、そういうのがあるのかなと思います。

それではK委員お願いします。

【K委員】

私は2年前、東京の渋谷から山口市の徳地に移住して手すき和紙の伝承に取り組んでいます。この度、地域おこし、地域づくりって何だろう。地域も広くてお天気もまちまちな地域がまとまる山口市というのは、本当に大変なことなんだろうなと想像しているんですが、先日この資料、目指すまちづくりという資料を読んでいる中で、自由な意見を書く欄があってそちらを読んでいると、こんなにもSOSを叫んでいる方が多いんだなということを改めて気づかされました。その中でも印象に残っているのが、私たち地域おこし協力隊って割と都市部から若手と呼ばれる人たちが来ているんですが、実際に暮らしてみると周りにいらっしゃるのやはり高齢者の方々ばかりです。その方々の意見としても、若手な方の意見としても多かったのが、やはり移動手段の不自由さが目立ったんですね。自分だけかなと思った地域にずっと根ざして暮らしている方々も今はいいけれど自分が年老いたときに移動手段がない。東京の暮らしを思い起こしますと、暮らしやすさというのは行きたいところに行きたいときに行きたい方法で自分の意思で行ける、その自由さがあって、楽しいイベントも、買い物も必要なときには病院にも行けるという、そういう自由度が非常に高かったということに気づきました。私たち地域おこし協力隊として県大の学生さんとも一緒に作業する機会があるんですが、徳地に来てもらおうと思ったときに、アクセスがなかなかないんですね。バスの時間帯が合わなかったり、交通手段がないということで。何か一緒にしようよ、交流しようよ、って言ったときに、気軽に会えない。まず会う方法から考えなければいけないんだなということが一つ課題になりました。それをもちろん自分たちで乗り合わせて来るとか、送り迎えしてあげるっていう手段で解決をしたんですが、もっともっと気軽に、会いたいときに、もしくは行きたいところに、行きたいときに自分が行きたい選択肢があってたどり着ける。楽しいイベント、湯田温泉に行きたいと思ったときに気軽に行ける、そういう既に歴史あるバスでも電車でもあると思うんですが、その自分と都合が合わなかったときどうやって足を見つけるかっていうのが、こういった地域で暮らすときに課題だなと、徳地に住み始めてから思いました。一つ思ったのが、ちょっと現実を分かっている提案かもしれませんが山口市が日本で一番ヒッチハイクしやすい市になったらいいかなと。バスが通らない時間帯でも、車が通ってない時間帯ってなかなかないと思うので、徳地から山口に向けるとか、山口から宇部に行くとかいう車自体が交通量としてあるわけで、そんなときに地元の人にしても、観光客にしても道路の脇でこっちに来てって指を上げれば親切な人が停めてくれて目的地にたどりつ

けるっていうことをすると交流しやすくなるのかなと思いますし、私も使ってみたいなと思います。実際には治安の面とか、何かがあったときにはどうするかっていう課題があるかとは思いますが、車を持ってない学生さんがもっと自由に移動できれば、若手と中山間地域で暮らす方々と交流も増えますし、そういったところから活気が生まれてくるのではないかと考えました。以上です。

【会長】

ありがとうございました。ユニークな、そういうことも考えられるな、というか確かに道路に車が走ってますよね。時々、渋滞が起きるくらい車が走っている。でもバスが走ってないっていうこと。何かそういうヒントになるのかなと思いました。L委員、何かご意見がありましたら。

【L委員】

そういう立場から広報広聴の取組という部分になろうかと思うんですが、いま非常に情報を伝えるというのはやり辛い時代でありまして、情報というのはものすごい量がいま世の中を駆け巡っています。その主たるものというのはインターネットで、個人が情報を完全に発信できるという時代。またそれを昔だとお茶の間で同じ画面のテレビを皆が囲んでというのが成り立ったんですが、今はもう一人に1台テレビがあるというだけではなく、テレビを見ながらスマホをいじるような、一度に2つの画面、さらにPC、3つの画面を見ながらいじるとか、そういう時代になっていまして、それぞれが欲しい情報にアクセスする。1日24時間365日ってというのは変わらないので、その中で接する情報ってというのは非常に多くの情報が現れる中で自分のもとの行く情報しか、欲しい情報しか取りにいかないという時代。その中で山口市が行われていることをいかに伝えるのかというところになった場合、やはりそこに興味を持っていただくというしかないのかなと思います。かといって、非常に娯乐的に触れすぎるというのもマズイのかなと思うんで、そのあたり大変難しいところだと思うんですが、伝わりづらい時代になったからこそ、どう伝えていくのか、全く提言にもなっていないような話で申し訳ないんですが、その工夫というかその辺りが求められているのかなと思っています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。山口市も市報はすごく有効で、うちの奥さんなんかは隅の隅まで見えています。ちょっとしたイベントがあるとすぐそこに電話して、空いてますか、ってよくやっていますので、それくらいちゃんとファンがたくさん居るといことも含めて、市民の皆さん方にどうやって情報発信するかということもぜひ将来構想の中に入れていただければと思います。今我々もネットか何かで流すということも大事なんだけど、紙に書いてどこかに掲示するというのも大事だよなって大学の中でもそういう話をさせていただいています。そういう伝達の方法ってクラシックかもしれないけど、そういう方法もあるのかなと思ったりもします。それでは政策8「行政経営分野」についてお願いします。

【事務局】

議事（２）施策別の振り返りと検討の方向性について、資料２（A4版）に基づき行政経営分野を説明

【会長】

ありがとうございました。基本的にはこれが基本として、これに従ってやっていくということによろしいですか。行政をやっていくと。分かりました。一応施策 8-1 が計画的、効果的な行政経営、山口市の経常収支比率だとか成果目標を達成した施策がいくらあるか、次に健全な財政運営の推進ということで、将来の負担率だとか実質公債費、山口市の定員適正化計画の進捗とかそういうことがうたっています。あとは市有財産の有効活用、広域行政の推進というようなことが書いてあります。

それから 8-2 のところには公正、確実な事務と市民サービスの向上ということが書いてありまして、契約、課税・税金、会計の適正執行、各種委員会における事務執行、情報と文書の管理という個人情報の管理とか、そういうことの総括がされています。それではこの政策 8 について、ご意見をいただきたいと思います。全般的な話になろうかと思いますが、M 委員さんお願いします。

【委員 M】

広域連携中枢都市圏の形成ということは非常にいいことで、本当にそれぞれの強みを生かしながら連携していただいて、特にまち・ひと・しごと創生が叫ばれて今から人口減だということなので、連携しながらやはりまち・ひと・しごと創生ができればいいかなと思っています。

それと戻って、6-6 市民の暮らしを支える地場産業が元気なまちの中小企業の経営安定化の検討のポイントで、金融機関との連携を密にし、経済情勢や企業ニーズに応じた融資制度の見直しが必要ではないかということで、まさに制度融資については昨年マイナス金利から非常に市場金利が下がってしまっていて、制度融資の金利については見直しをお願いしているんですが、早期にこの見直しを検討していただければありがたいなと思っています。利用件数については A3 の振り返りと検討の方向性の施策を実現する 12 ページの中小企業の経営安定化で成果指標の山口市の制度融資利用件数は目標値は達成しているかということで、目標値が達成しているようなんですが、私のイメージとしては利用件数が少ないのではないかなと思っています。もっと制度が利用しやすいように。それと以前から色々な制度融資がありますが見直しをされていないので、的を絞って時代に合った制度融資等、適正な金利が、金融機関としては低すぎても困るんですが、利用しやすい制度融資をぜひ見直しをいただければありがたいなと思います。またその 6-6 の下で地域の経済的発展を支える次世代の担い手の確保や人材育成の支援というところで、山口県全体でも事業を承継する人がいない比率が 75% ということで高齢者と子息はいるけど経営をしないっていう方がいらっしやると、経営をできる人材を若いうちから人材育成するということが必要ですし、やはり山口

県の県央で都市の中でもそういう事業承継の問題が非常に高いと思われますので次の総合戦略の中に事業承継問題を特に取り入れていただいて、次世代の経営者を選奨させるというか、育成する支援というのが非常に重要ではないかと思っていますので、ぜひ入れて頂ければと思います。よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございました。県内の高等教育機関で県内の就職者の就職率が10%上げようというプロジェクトをやっています、まさに経営は非常に健全で優良な企業なんだけど後継者がいないという企業さんが本当に多いと聞きますので、希望した採用数の半分くらいしか満たしていないという企業さんがたくさんおられますので、高等教育機関も一生懸命になって、将来の経営者になってもらえるような人材をどんどん地域に送り込めるようお願いをしたいと思います。非常にそれは重要な話だと思います。

N委員、ご意見があればお願いします。

【委員 N】

施策8で申し上げますと、これは意見というより感想ですが、先ほどまち・ひと・しごと創生総合戦略についてありました。県でも人口減少の対応をするということで取り組んでおりまして、県下全市町内で総合戦略を作っておりますが、やはり一番重要なのは若い方が働きやすい環境をどうするのか、あるいは子どもを育てやすい環境をどうするのかということ。従って今後のいわゆる働き方改革、こちらの方向性が非常に重要になってくると思います。そういうことも含め、この総合戦略、非常に重要なものですので、当然お考えとはおもいますが、総合計画においても総合戦略をどういうふうにしていくのか。具体化と言いますか、これをどのようにリンクさせていくのかということもお考えになって策定されたいと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。O委員さんお願いします。

【委員 O】

今回出された施策には直接結びつかないかもしれませんが、地域に活力をもたらすというのが修飾語にあるので、地域に活力をもたらすという面から一言お話をしたいと思います。次の10年間で山口市として地域に活力をもたらせる、そのもの、具体的に取り上げていったらどうかと思います。山口には山口にしかないものがあります。例えば能と一緒にやる狂言、驚流狂言、これは山口でしかない。それと一緒に能というのがあります。能は当然表をつけて、装束をして舞うわけですが、その装束と能が実は山口にとんでもない代物が現存しています。それは毛利さんが長いことかけて蓄積してきたもので、どこにもありません。こういったものを山口市の文化財保護課を中心に少しこれはブラッシュアップして、これは山口にしかないんだから、この10年間かけてこれだけのことしてみよう、また次の20年先でここまでやってみようとか、そうした人がハッと振り向いてく

れるようなものとか、地元の人、山口市民が他所に行って自慢げに話せるもの、そういうものを具体的に10年のビジョンの中にどこまでやる、といったようなことを書いてみるというのもここでいう地域に活力をもたらすことに繋がるのではないかと考えます。以上です。

【会長】

ありがとうございました。似たような話がさっきから出ております。山口のビジョンを明確にしよう。それを書き込むということも大事。こういうまちを目指すんだと。前回もそういうご意見があったかと思えます。姿を見せると。こうしたいと。山口ってこうなんだよねってことを明確に示すことが非常に大事かな。色んな施策があっても、じゃあ何を指すんですか、山口どうなりたいんですかっていうところをやはり明確に示すということも非常に大事なような、湯田温泉の話も含めてですね。

P 委員どうぞ。

【委員 P】

先ほど連携中枢のことを言えなかったので申し上げます。その前に事業承継の現状をお伝えしたいと思います。山口商工会議所会員数がいま2,800ございます。10年前は500多かったですね。10年間で500減りました。現状はどうかと言いますと、毎年100社くらい廃業されています。同じ数くらい新しい企業が個人事業主含めて生まれています。今後どうなるのか、いま現状で調査しているんですが、廃業予備軍が非常に多いです。10年後どうなっているのか本当は恐ろしい状況になると思います。これが現在の状況です。それを事業承継をどうするかということですが、なぜ辞めるかというのが、たいていの場合はこんなきつい仕事を息子にさせたくない。ということが大半でございます。その現在の仕事をそのまま承継するというのは、事業の内容自体からして難しい点も多々あるような気がしています。むしろ新しい事業を現在の形に沿った形で生みやすい環境をつくるということも今後の事業承継を含めた企業を増やす上で大事なのかなという気がしています。

連携中枢の件です。この件は昨年山口市さんが中心となって動いておられまして、今年3月に7市町で連携協定を結ぶということになっていますが、その過程において山口の商工会議所、この地域内の他の商工会議所、商工会、そして観光協会さんに集まっていただいて具体的に何をしたら人口減が食い止められるのかという議論をしてきています。30年後にこの圏域内で約15万人減るという予想がたっています。山口市においては数万人減ります。萩市においては今の人口の半分になります。津和野町においては6割なくなる予想になっています。これは社会的なインフラがもう維持できないということに直接結びつく数字です。じゃあこれをどの程度食い止められるかということですが、人口減を食い止めて少しでも人口を増やすためには、当然生活しやすい環境の整備も含めて、色んな点があると思います。ただ7市町でまとまって動く要素として、現在7市町

の経済界等で意見が一致しましたのは、交流人口を増やすことによって、それを地域経済の活性化に繋げる。地域経済で新しい雇用が生まれる環境を作ろうと、ここだけは一致しています。それで具体的に何をするかというのは今後の議論になってくると思っています。ただ一つ言えることは今までは隣のまちと観光客の奪い合いのようなことをしていました。色んな施策を戦いあって結局萩に取られたとか、長門に取られたとか、そういうことがあったような気がしていますが、今回はそう取り合うのではなくて、色んな誘致も含めてまとまったことをやろうというふうに今言っています。奪い合えば何もなくなりませんが、お互いに助けあうことによって少しでもまとまった観光戦略も含めてできるのではないかと思います。これは JR さんにご提案ですが、草江駅などは山口宇部空港駅というふうに駅名改称をすることも、この地域が一体となって観光戦略する上で非常に重要なのかなと思っています。

ついでに言えば、山口宇部空港は、山口空港、新山口空港まで名前を変えることによってこの圏域内のまとまりだすのかなと、そこまでの議論を今後していきたいなと思っていますが、要は7市町がしっかり団結することによって、域外からの色んな交流人口をこの域内に投入する、できれば海外からも投入することまで含めたことをやりたいと。そのためにも域内の色々素晴らしいものを極めていく。先ほどの驚流狂言もしかり、手すき和紙も含めて色んなことがたくさんありますから、そのシナリオを作って売り出すということが大事かなと思っています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。

【委員 Q】

まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点的な取組としては定住促進と少子化対策ということがここに挙げられています。全くその通りだと思いますし、私は交流人口を増やすことも非常に大事と思いますが、やはりまず、市民が元気にならないといけない。そのためには、11ページの資料にもありますように、秋穂地区、徳地地区、阿東地区は将来的にはこんなに減少していくという状況の中でここで大きなポイントとして、小さな拠点づくりということが大事なことだと思っています。ただその拠点も公共とかJAとか診療所など生活に必要なサービス機能だけの拠点ではなくて、その前のページにもありますように、商工業を含めた拠点づくりをして、その地域の人が安心してそこで生活できるということが大事ではないかと思います。いまだんたん過疎化してきて、日常の買い物もままならないという状態がこの周辺にたくさんあります。そういうことを十分考えていかないと、これから市全体としては成り立っていかないのではないかと思います。ただ山口の中心街を設けたように、あるいは小郡の駅のところを活性化する、これも大事なことと思いますが、それだけでは山口市はなっていないのではないかと思います。先ほどの説明の中にも商工会議所の会員数はあまり減っていないが、商工

会の会員は減少していると。まさにそのとおりです。地域によっては商店が全部廃業して会員が減っているのが現実ですので、そういうふうに地域の産業、商業を含めて小さな拠点づくりというのが大事なのではないかと思いますので、その辺をぜひ取り入れていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございました。山口市は広いので、それぞれ地域ごとにそれぞれの持っている悩みがあるかと思いますので、山口市がこうなんではなくて、ここはこういう課題があるからこういう将来ビジョン、先ほどから何度も出ていますが、将来どうしたらいいのかという、そういう姿を見せれるように、その場所場所によってみんな違うんだらうと思います。そういうことをやはり総合戦略の中にもできる限り盛り込んでいただけるといいのかなと思います。

全体に対してご意見がございましたらお願いします。

【R 委員】

私は大学生の就職をみている関係で、大学生の話をさせていただきます。まず9ページ施策6-6のところにも市も雇用政策を色々やっています、人口問題等考えまして若者の定着は非常に大きい。ではそのために何をするかというと働く場所であると。そういうことで色んなことをやらないといけないのは分かるんですが、ちょっと2つの点を申し上げます。

一つは県がやることと、市がやることはちゃんと整理をして、できれば重複なく効果的に投入するということです。現在、交流会、セミナー、インターンシップ等、県もやっていますし、市もやっています。同じようなことを事実上やっているような、そんな気もしています。では市がやることって何だろうな、ということとは少し議論を深めていただく必要があるのではないかと思います。

それからもう一つは間接的な施策が非常に多いという話です。靴の裏から足の裏を搔くみたいな、そういう話で果たして効果があるんだらうかということ。大学生と地元の企業が交流しても、それが果たして就職に繋がるんだらうか。同じお金をかけるのであれば、しっかり成果が上がるようなお金のかけかたをすべきではないかという感じは若干しています。市の事業者が採用活動ができるように勉強会の支援をするということでもいいかもしれませんし、実際にUターンの転職者を転職したらもうそれを職業者にする。確実に雇用の増加に繋がるような施策を重点的にやっていただくことも少し考えていただく必要があるのではないかと思いますので、ご意見させていただきます。以上です。

【会長】

ありがとうございました。先ほどの人口減もそうですし、企業の継承も非常に厳しくなっているというのは、これは現実として、待ったなしだと思います。やはりさっき言われたような効果のある、やはり一番確実に効果が出るようなことも考えながらやると。理想論を言ってもこれはどうしようもならないので、そこまで市全体もある、広域圏全体がそういう危機にあるということをまず我々は認識

	<p>しなければいけないと思います。絵に描いた施策ではなく、実際に本当に効果があるような施策をうっていかないと、待ったなしだと思います。いつだったか講演を聴いたときに、もう我々に残された期間は2年しかないと言われました。2年って何ですかという、第二次ベビーブーマーが出産適齢期を過ぎてしまう。そうすると絶対数は減るのでいくら地域に人を女性を引っ張ってきて、そこで家庭を作っていただくとしても、もう手遅れだと。もう残された時間は2年しかない。結構過激なことを言われました。そういうこともあって、やはりそういう意味では本当にこれは喫緊の課題ではないかと、そういう危機感をやはり我々も持つことが必要ではないかと思っています。</p> <p>それから全体的な印象なんですが、先ほどから何回も出ていますが、明確なビジョンといますか、そういう将来の姿を見せていく。それも山口市は広いのでエリアごとにもそういうものを見せて、ここではこういうっていう DVD か何かでこういうイメージなんだよねっていうのがあると、それがまたいろんなところにアピールできるようなものがあるといいのかなというふうに思いました。</p> <p>それから市役所の場所だとか、新山口駅の北口の開発だとか、いろんなものが並行して走っています。ぜひその辺の調整も常に考えていただきながら、総合計画をつくっていただけたらいいと思います。</p> <p>長い間、いろいろとご議論いただきありがとうございました。では私のほうからそちらにお返しをしたいと思います。</p> <p>【事務局】</p> <p>それでは、今後の予定につきまして説明します。次回、第5回目の策定協議会については、次第にございますが、5月26日金曜日午後2時から、本日の協議会と同じく防長苑の1階のこの場におきまして開催させていただきたいと思えます。テーマについては、これまで政策1から政策8までご協議をいただきました。そういった内容を踏まえまして、総合計画の基本構想、それから基本計画の素案など、こういったものをお示しをしたいと思います。また皆さんのほうからご意見、ご提案をいただきたいと思います。また当日の資料については、開催日の1週間前くらいまでには皆さんのお手元のほうに届くように事前配布をさせていただきたいと思います。またこれまで色々委員の皆さんからご提案をいただいています。またぜひこういうプロジェクト事業があるのではないかと、いうものがありましたら、事務局のほうまでまたご連絡をいただきたいと思います。また事務局としてもいろいろご相談させていただきまして、資料の方作成してまいりたいと思います。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1 第3回協議会における協議概要 ・ 資料2 施策別の振り返りと検討の方向性

	<p>【検討のポイント・概要版（A4）】</p> <p>【詳細版（A3）】</p> <ul style="list-style-type: none">・資料3 委員名簿・資料4 配席図・資料5 意見書
問い合わせ先	総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747